

## 【新刊紹介】

## 『「やさしい日本語」表現事典』

丸善出版 企画・編集部

(Maruzen Publishing Co., Ltd, Editorial department)



「やさしい日本語」とは、相手に分かりやすく情報を伝えるため、シンプルな文法とやさしい単語を選択する等の工夫をした日本語です。1995年の阪神・淡路大震災で、外国人住民に十分な情報が行き届かなかった問題をふまえ、研究者や放送関係者の協働により、簡略化した日本語が研究されたことが始まりです。

いま、日本には多くの外国人が生活しています。3カ月以下の短期滞在者を含まない、永住者や中長期在留者、留学生等の「在留外国人」の数は年々増加し、2019年4月の改正入管法案の施行による特定技能ビザの新設により、今後も外国人労働者が増加することが予想されます。日本に定住する外国人にとっては、災害時のみならず、日常生活を送るために必要な生活情報を得られる

ことがより重要です。「やさしい日本語」はそういった平時の場面でも力を発揮すると考えられ、すでにNHK「News Web Easy」等のメディアや行政で実践・注目され、取り組みは広がっています。

本書のⅠ部では、「やさしい日本語」の歴史や日本語教育の現状、外国人への「情報提供」のみならず、日本社会での「居場所作り」や、「障害を持つ人」及び「日本語母語話者」にとっても重要な役割を果たす「やさしい日本語」の多様な側面について解説しています。Ⅱ部では、学校・PTA・保育園・行政・くらしで起こる実際の場面・身近な場面を想定しながら、「やさしい日本語」への言い換え・書き換えを、例文をもとに解説しています。外国人との「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションを、読者に具体的にイメージしていただくことを目的にしています。またⅢ部では、異文化を持つ方たちとともに暮らしていく上で、「文化の差異」から生じる一部の事柄について解説しています。

「多文化共生社会」に重要なことは、ことばのテクニクのみならず、多様な存在を認め、相互に思いやる気持ちではないでしょうか。本書は、そうした考えを基本に、「やさしい日本語」を知り、社会で暮らすさまざまな立場の人とことばの問題を、読んで、考え、実践することを目指した事典です。

(庵功雄(編著)・志賀玲子・志村ゆかり・宮部真由美・岡典栄(著)、丸善出版、令和2年7月10日発行、3,800円+税)